



Creating for the Future

いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

2023年3月期 決算補足説明資料

2023年5月12日

SWCC株式会社

1. 2022年度決算概要
2. 2023年度通期業績予想

1. 2022年度決算概要

2022年度 決算総括

業績：外部環境の影響は受けつつも**構造改革効果**や**好調事業の牽引**により、**前年度比増収・増益。**

・ エネルギー・インフラ事業

建設関連向けは原材料価格高騰に対する販売価格見直しや製販事業統合による収益改善を進め安定需要を捕捉。電力インフラ向けは老朽化更新や再生可能エネルギー関連の需要が堅調に推移。前年度比増収・増益。

・ 電装・コンポーネツ事業

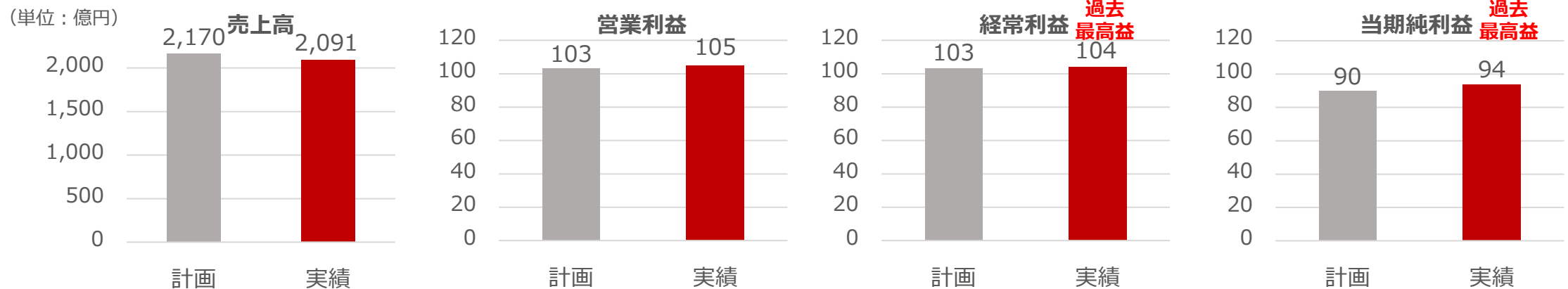
自動車向け高機能製品は一部欧州向け需要を取り込むも、前年度上期後半より続く自動車減産の影響を受けて低調に推移。前年度比減収・減益。

・ 通信・産業用デバイス事業

上期に生じた通信ケーブルの国内生産拠点再編の一部立ち上げ遅れや産業用デバイスの中国ロックダウン等の影響は下期に改善するも、前年度比増収・減益。

計画達成状況（売上高/営業利益/経常利益/当期純利益） ※**経常利益・当期純利益とも、過去最高を記録**

(2022年9月22日 業績予想修正値を反映)



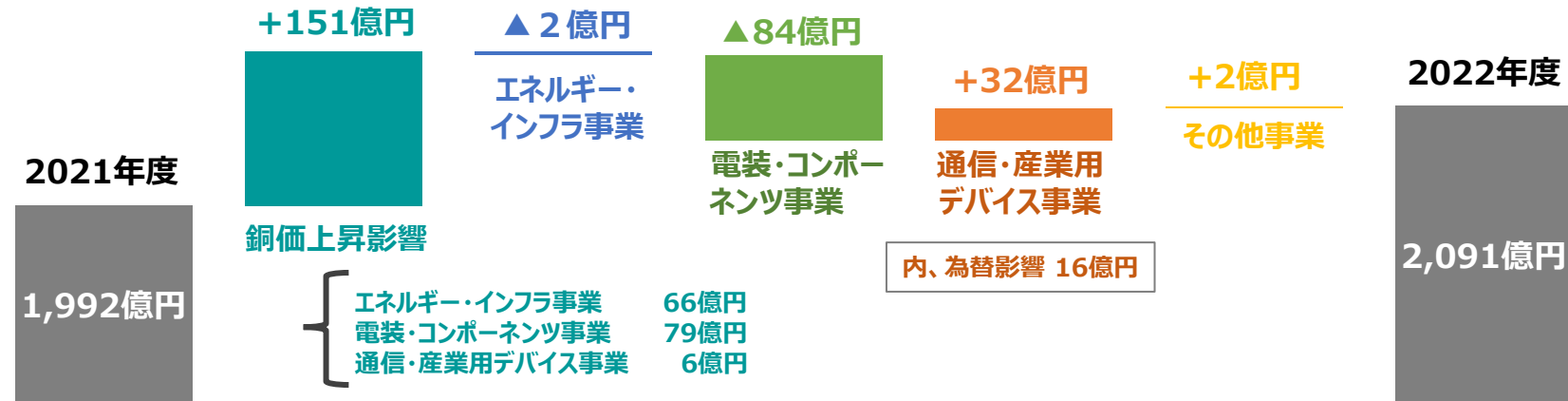
2022年度 連結業績 P/L

前年度比増収・増益。利益については計画を上回り**経常利益、当期純利益ともに過去最高を記録。**

(単位：億円)	2021年度 実績	2022年度 実績	対前年増減率 (%)
売上高	1,992	2,091	5.0
売上総利益	254	258	1.8
営業利益	100	105	4.3
経常利益	99	過去最高益 104	5.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	94	過去最高益 94	0.6
1株当たり配当 (円)	50	60	(前年差) 10
ROE (%)	17.7	15.0	(前年差) ▲2.7
ROIC (%)	7.6	7.1	(前年差) ▲0.5

2022年度 増減要因

売上高増減要因

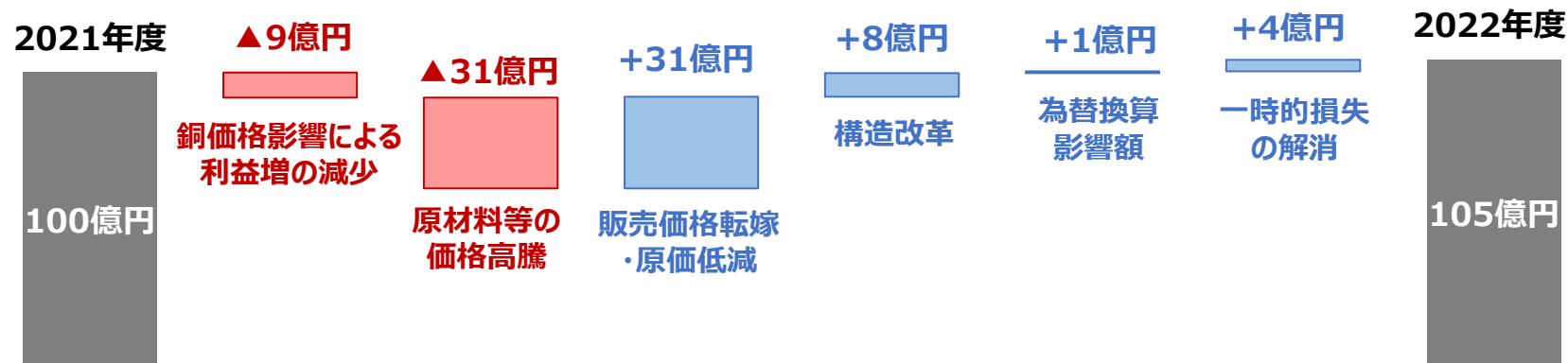


【増減要因】

1. 売上高

主に銅価格上昇によるコストアップを適時に販売価格にスライドし**増収**。為替の影響は、通信・産業用デバイス事業に16億円程度含まれる。

営業利益増減要因



2. 営業利益

原材料等の価格高騰に対し販売価格の見直しや原価低減によりカバー。**構造改革効果 8 億円**に加え、為替影響1億円のプラスもあり**増益**。

2022年度 セグメント別業績

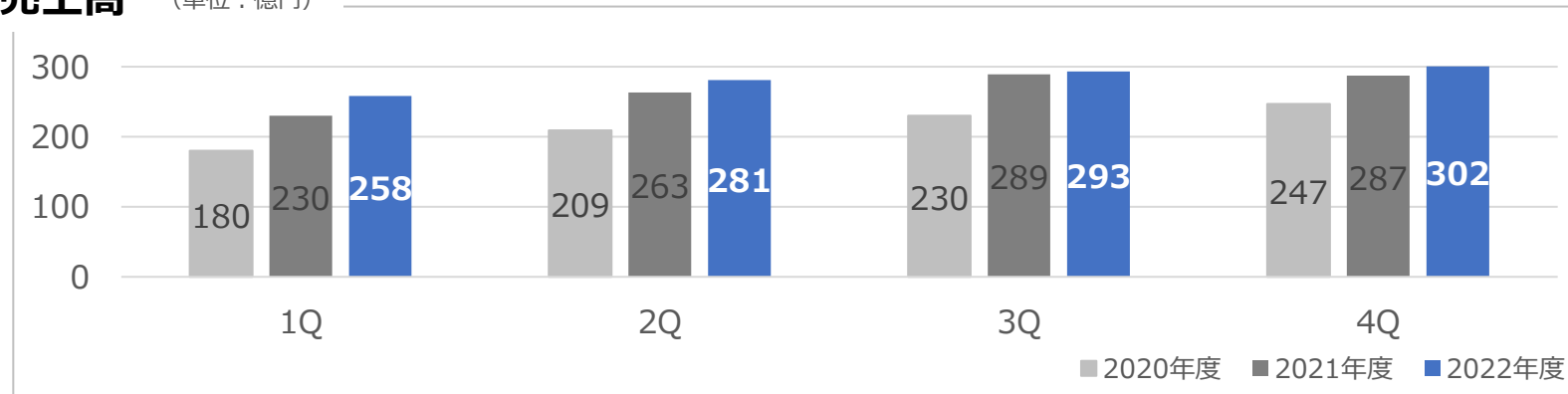
自動車の減産影響ならびに中国ロックダウンの影響等外部環境の影響を受けながらも、建設、電力ともに好調なエネルギー・インフラ事業の牽引や下期の施策強化により収益は回復。

(単位：億円)		2021年度 実績	2022年度 実績	対前年 増減率 (%)	2022年度 ROIC (%)
エネルギー・インフラ事業	売上高	1,069	1,133	6.0	8.7
	営業利益	65	77	18.5	
	営業利益率(%)	6.0	6.8	(前年差) 0.7	
電装・コンポーネンツ事業	売上高	586	581	▲0.8	6.9
	営業利益	24	17	▲28.7	
	営業利益率(%)	4.0	2.9	(前年差) ▲1.1	
通信・産業用デバイス事業	売上高	295	333	12.8	5.9
	営業利益	18	18	▲3.1	
	営業利益率(%)	6.2	5.3	(前年差) ▲0.9	

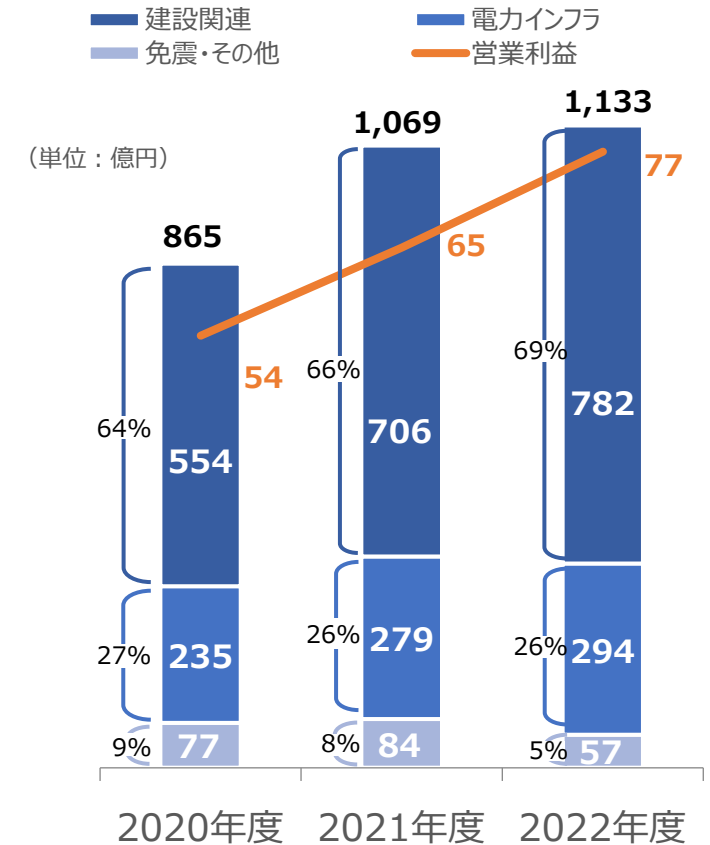
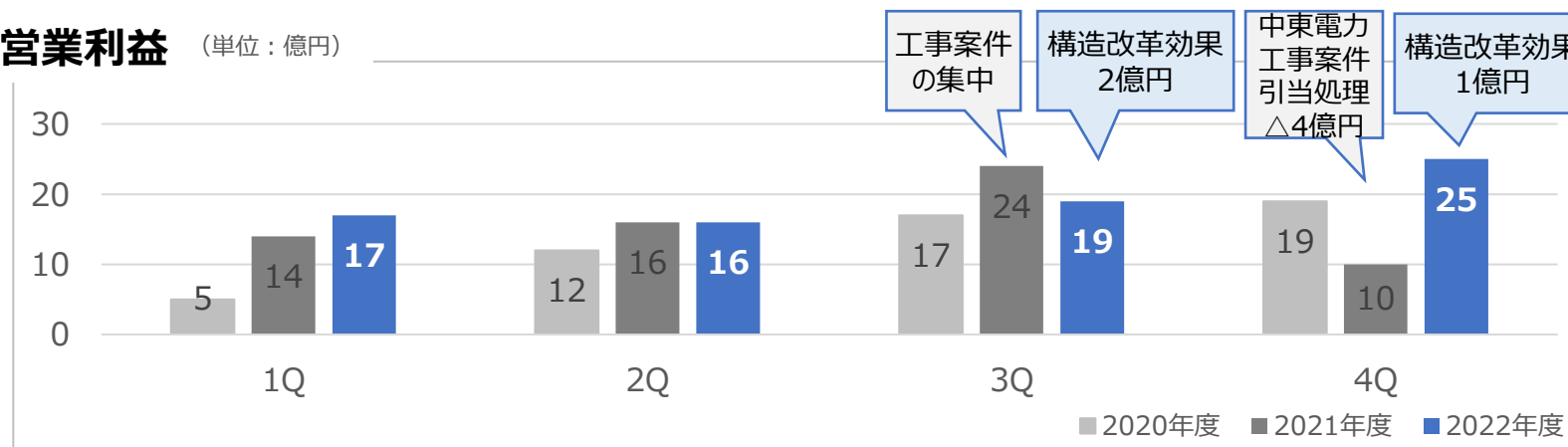
2022年度 セグメント業績 エネルギー・インフラ事業

建設関連の製販事業統合による収益改善や、老朽化更新および再エネ関連の需要が堅調に推移し、前年度比増収・増益。

売上高 (単位：億円)



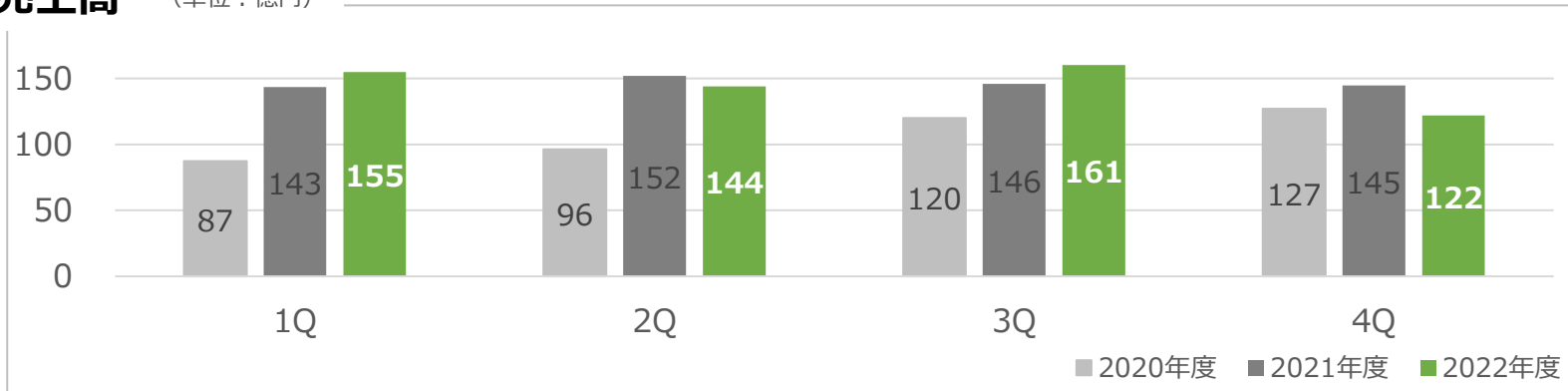
営業利益 (単位：億円)



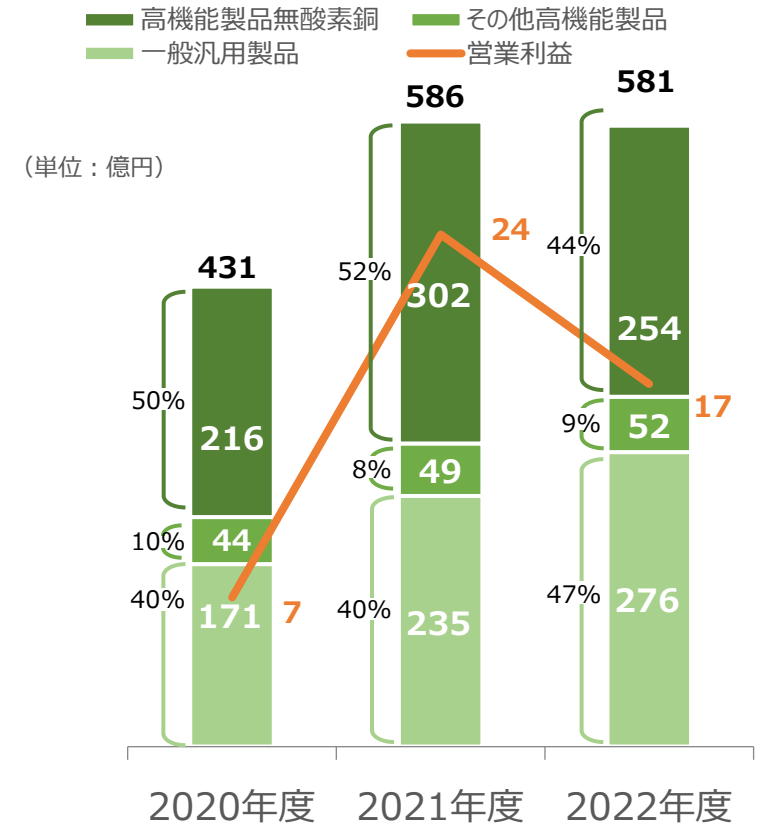
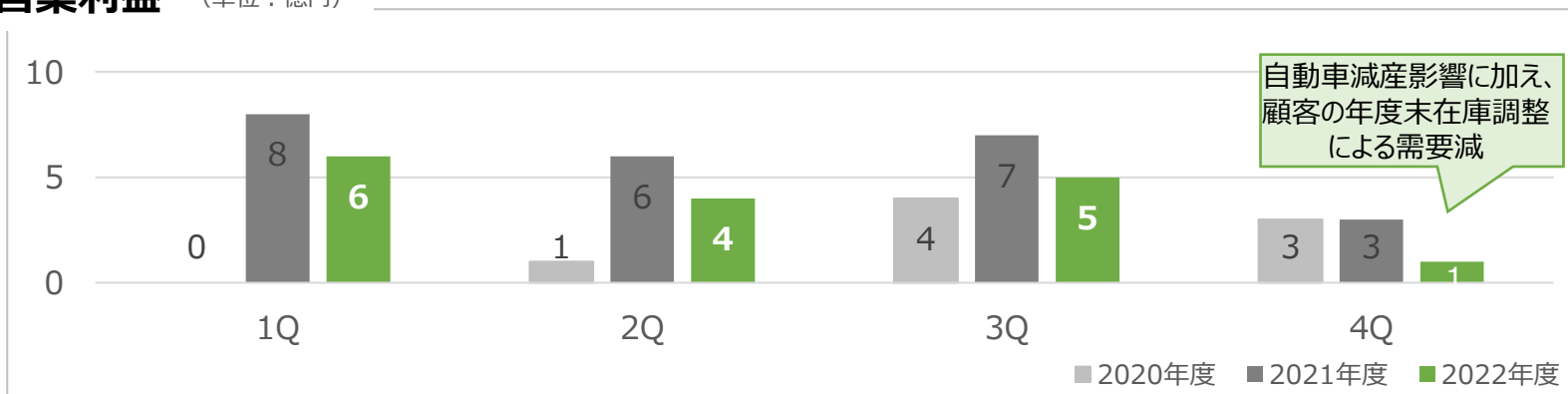
2022年度 セグメント業績 電装・コンポーネンツ事業

高機能製品は一部欧州向け需要を取り込むも、前年度上期より続く自動車減産の影響を受けて、前年度比減収・減益。

売上高 (単位：億円)



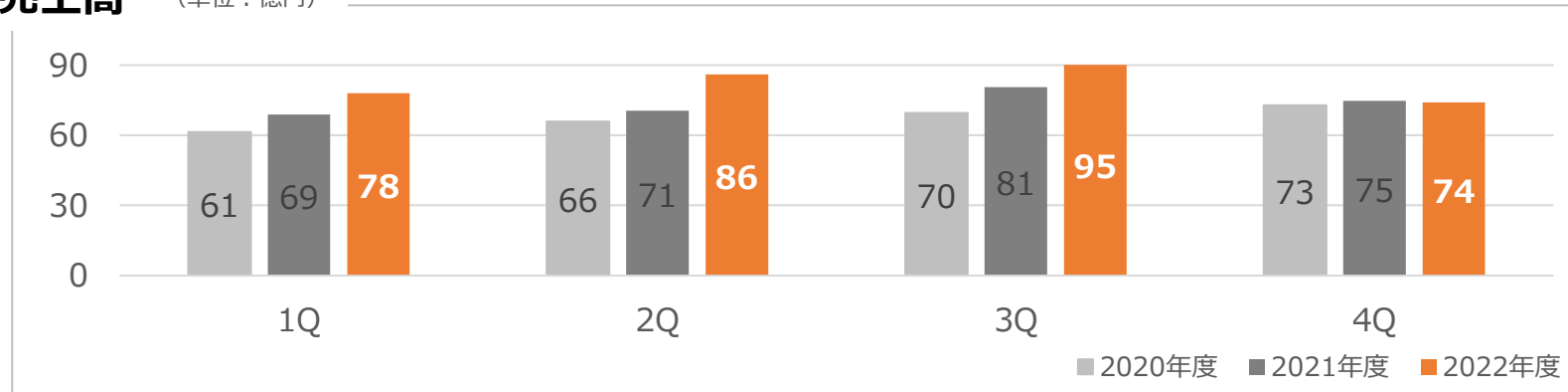
営業利益 (単位：億円)



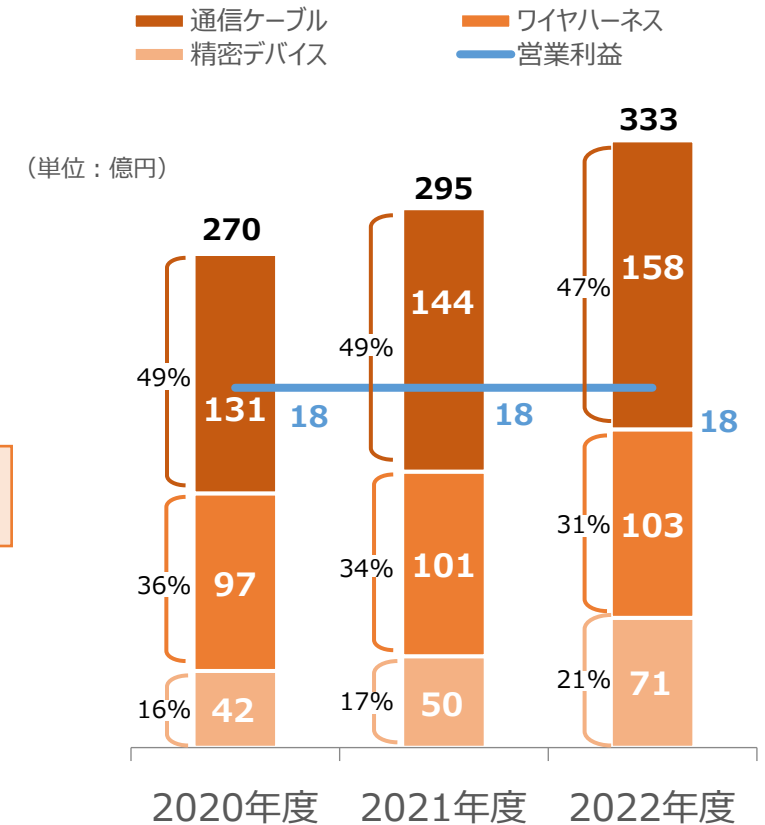
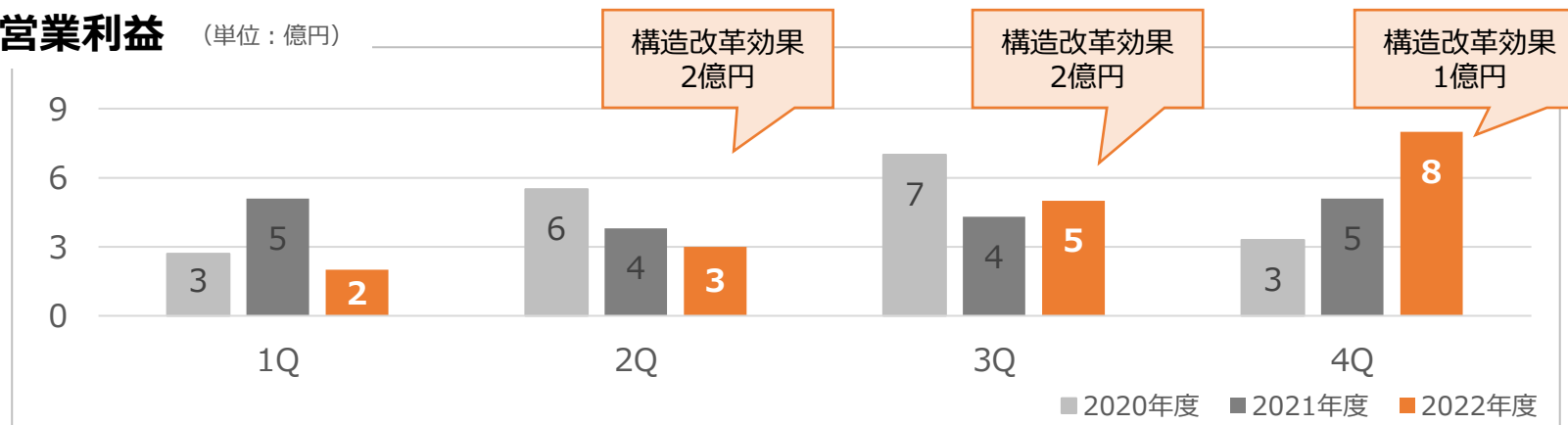
2022年度 セグメント業績 通信・産業用デバイス事業

上期に生じた国内生産拠点再編の一部立ち上げ遅れや中国ロックダウン等の影響は下期に改善も、前年度比増収・減益。

売上高 (単位：億円)



営業利益 (単位：億円)



2022年度 連結業績 B/S (前期末比較)

(単位：億円)	2021年度末	2022年度末	増減
資産合計	1,474	1,567	93
売上債権	527	527	▲0
棚卸資産	260	282	21
固定資産	587	646	60
負債合計	884	883	▲2
仕入債務	267	249	▲18
有利子負債	392	412	20
純資産合計	589	684	95
自己資本	583	675	92
自己資本比率(%)	39.5	43.1	3.5
DEレシオ(%)	67.2	61.0	▲6.3

【固定資産】

退職金制度改革（特例掛金拋出21億円を含む）および有価証券の評価替えにより増加。

【有利子負債】

原材料価格高騰と銅価格高騰により運転資金増大。

【自己資本比率】

総資産は増加するものの、利益剰余金の増加等により自己資本が増加したため、前期末対比3.5%増。

【DEレシオ】

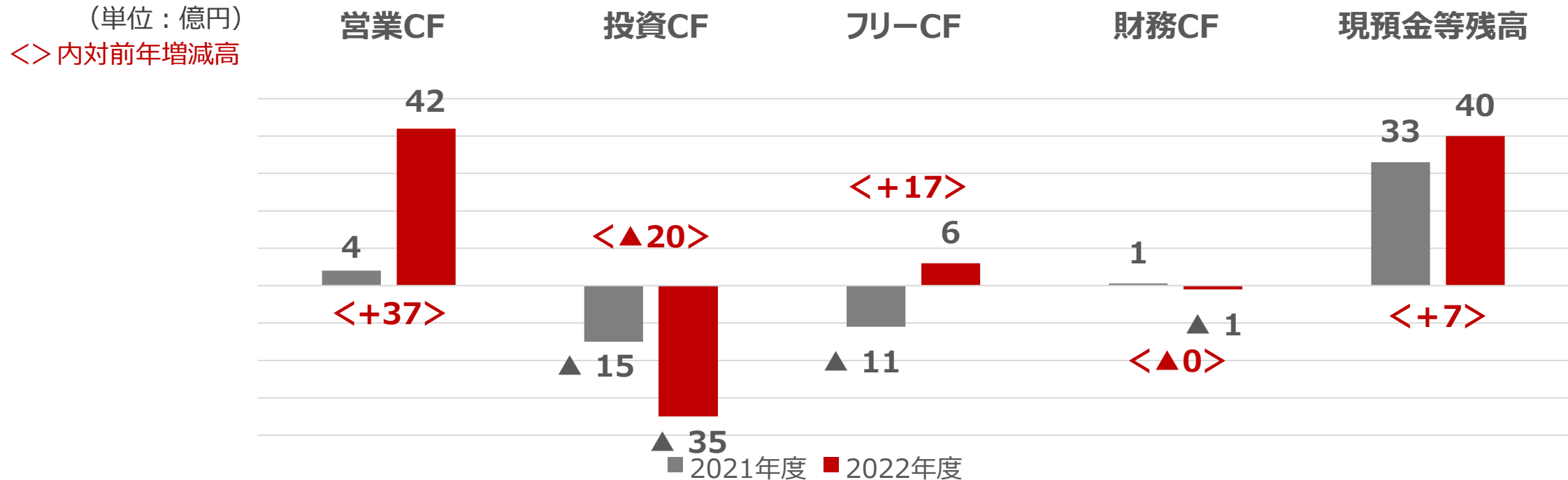
有利子負債は増加するも、自己資本も増加したため、前期末対比6.3%減。

<現状の課題認識と今後の対応策>

原材料価格高騰や銅価格高騰により棚卸資産が増加。引き続き、適正な水準での在庫の確保と、債権回収期間の短縮を進めることで、運転資金の適正化を図る。

2022年度 連結業績 C/F (前期末比較)

営業CFは昨年度の急激な銅価格上昇局面での運転資金増加影響緩和により**対前年37億円増加**、
 投資CFは固定資産売却収入の減少により**対前年20億円減少**、
 フリーCFは**対前年17億円増加**し当期6億円を確保。

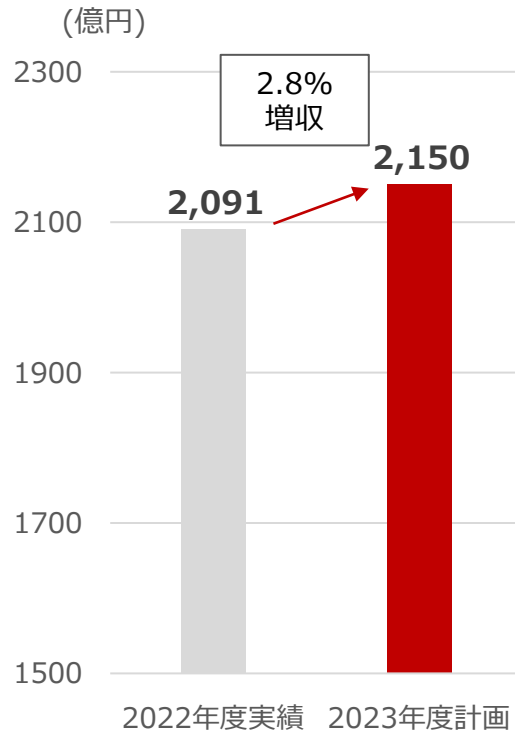


2. 2023年度業績予想

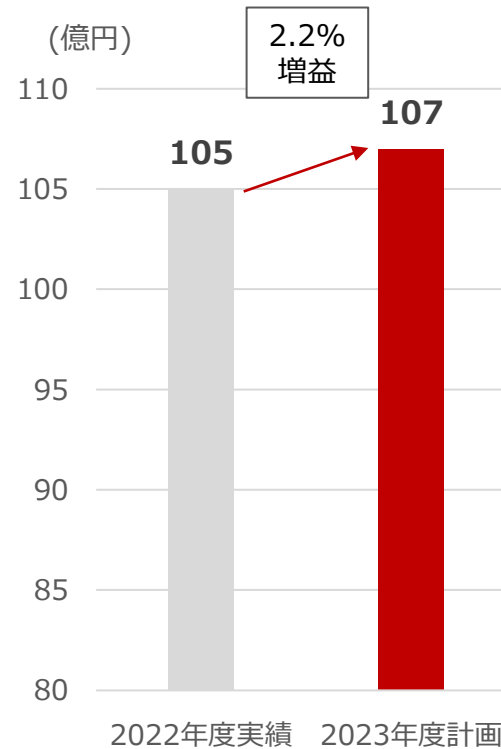
2023年度 通期業績計画

エネルギーコスト等の高騰を織り込むも、各種施策により増収・増益を計画。株主還元は中間配当を実施し増配予定。

売上高



営業利益



経常利益

106億円 (前年度対比2.0%増)

親会社株主に帰属する 当期純利益

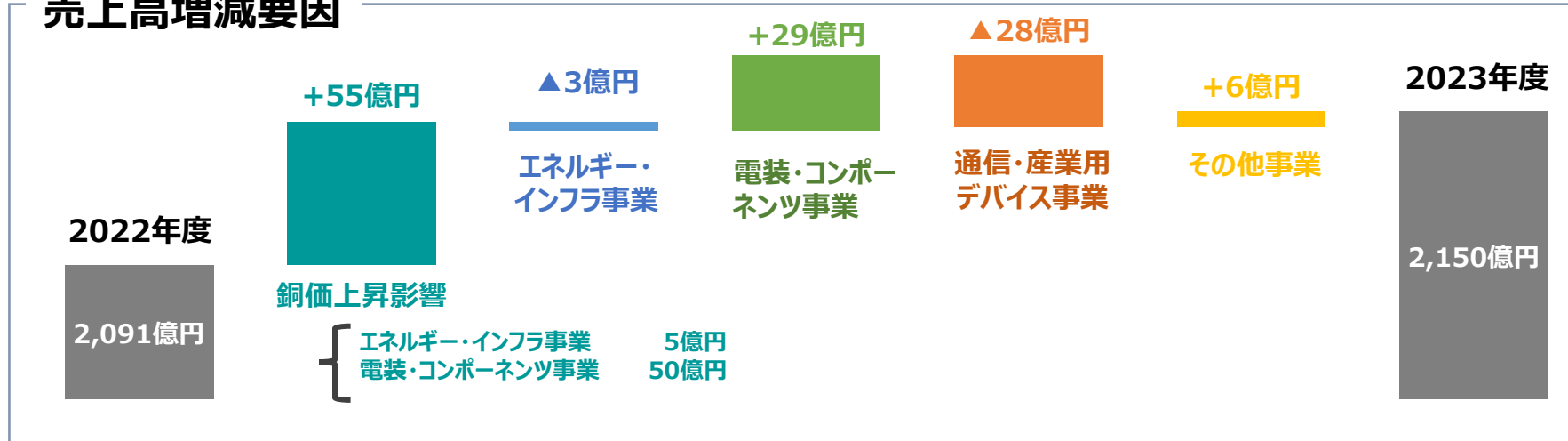
70億円 (前年度対比25.6%減)

配当/配当性向

75円/32% (前年度対比15円の増配)
 中間:35円 期末:40円 合計 75円

2023年度 増減要因

売上高増減要因



【増減要因】

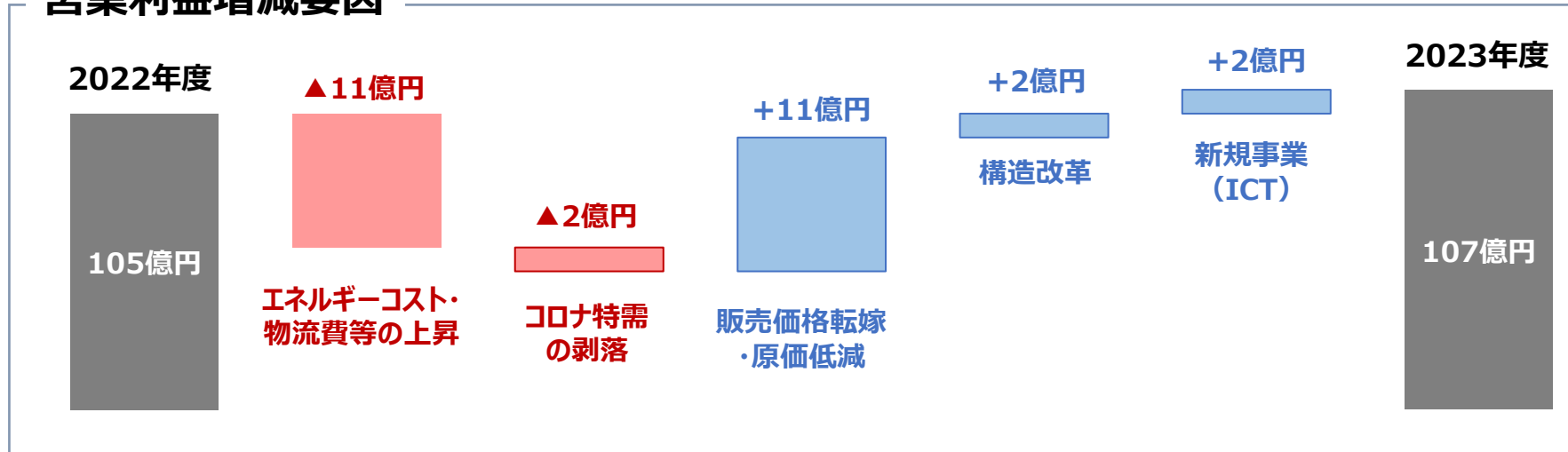
1. 売上高

主に銅価格上昇によるコストアップを適時に販売価格にスライドし**増収**見込み。

2. 営業利益

エネルギーコスト・物流費の高騰に対し販売価格の見直しや原価低減によりカバー。**構造改革効果 2 億円**に加え、**新規事業 (ICT) の本格化**により**増益**見込み。

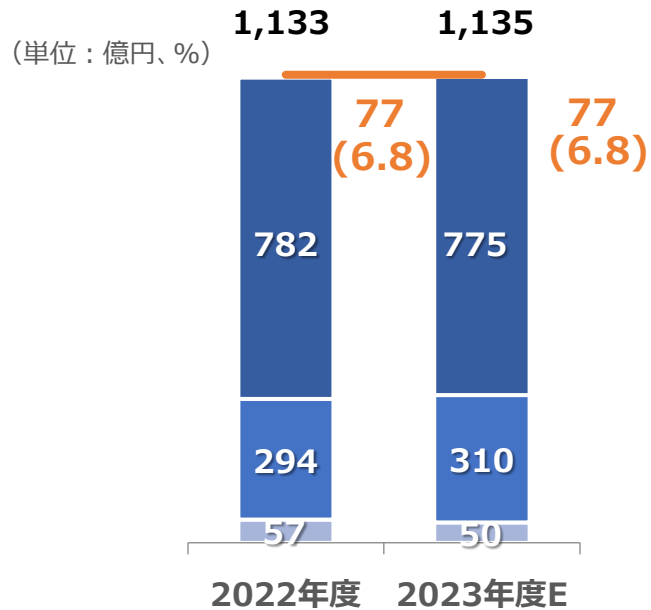
営業利益増減要因



2023年度 セグメント別業績計画

エネルギー・インフラ事業

■ 建設関連 ■ 電力インフラ
■ 免震・その他 ■ 営業利益 () 営業利益率

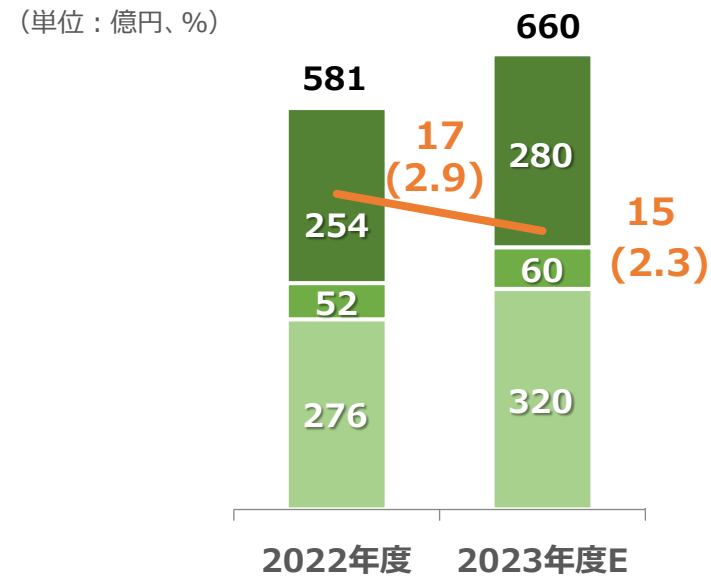


銅価影響：売上高 5 億円増

- + 要因 ● 建設関連の製販事業統合による収益改善
- SICONEX®の増産投資による売上貢献
- 要因 ● 建設関連特需の減少

電装・コンポーネンツ事業

■ 高機能製品無酸素銅 ■ その他高機能製品
■ 一般汎用製品 ■ 営業利益 () 営業利益率

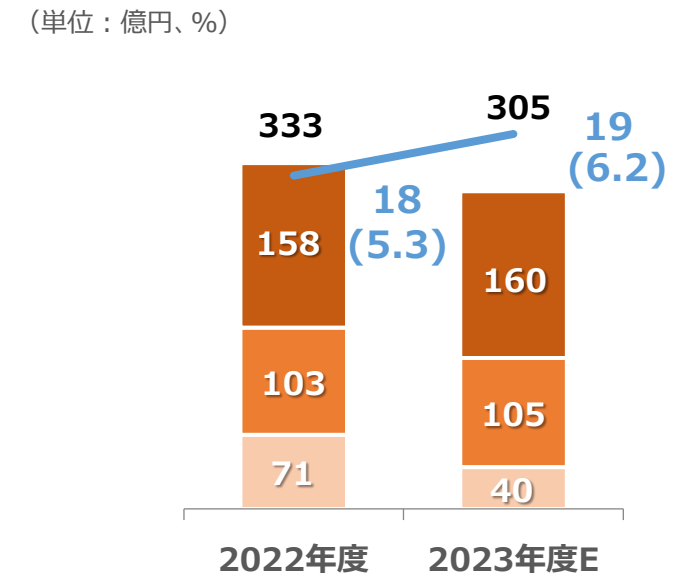


銅価影響：売上高50億円増

- + 要因 ● xEV向け高機能製品の下期回復
- 重電向け需要堅調
- 要因 ● xEV向け高機能製品の上期低迷

通信・産業用デバイス事業

■ 通信ケーブル ■ ワイヤハーネス
■ 精密デバイス ■ 営業利益 () 営業利益率



銅価影響：-

- + 要因 ● 通信ケーブル生産拠点統合効果の最大化
- 中国ロックダウンの解消
- 要因 ● 産業用デバイス事業のコロナ特需の剥落

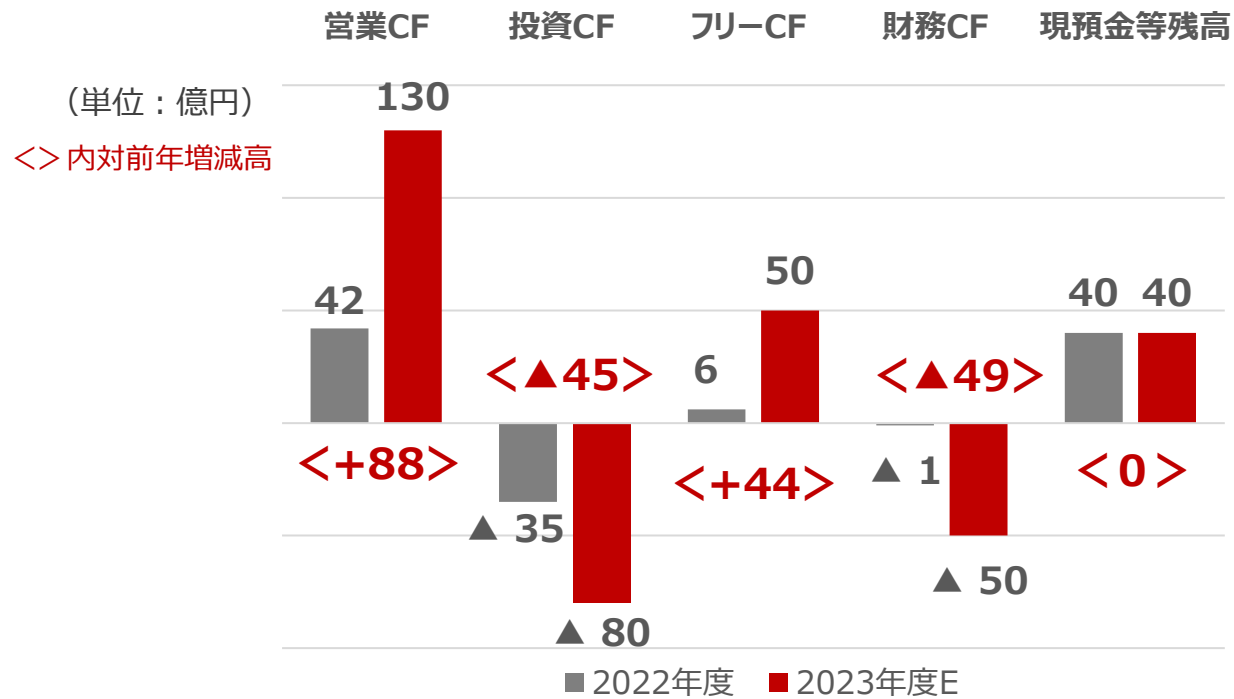
2023年度の事業環境認識

上期業績の進捗は例年に比べて緩やかな見込み。下期における電力や通信の旺盛な需要と新規事業の本格化により、通期増益を見込む。

		上期	下期
事業環境認識	建設	例年並み	例年並み
	電力	電力案件の下期偏重	再エネ系統整備等、需要旺盛な電力案件の集中 SICONEX®増産による拡販
	自動車	xEV向け高機能製品は需要回復に向けた調整局面	xEV向け高機能製品の需要回復
	産業用デバイス	産業用デバイス事業のコロナ特需の剥落	産業用デバイス事業の需要回復
	通信	例年並み	e-Ribbon®の海外拡販、車載向けFLANTEC®の拡販
	新規事業(ICT)	例年並み	ICTの本格化

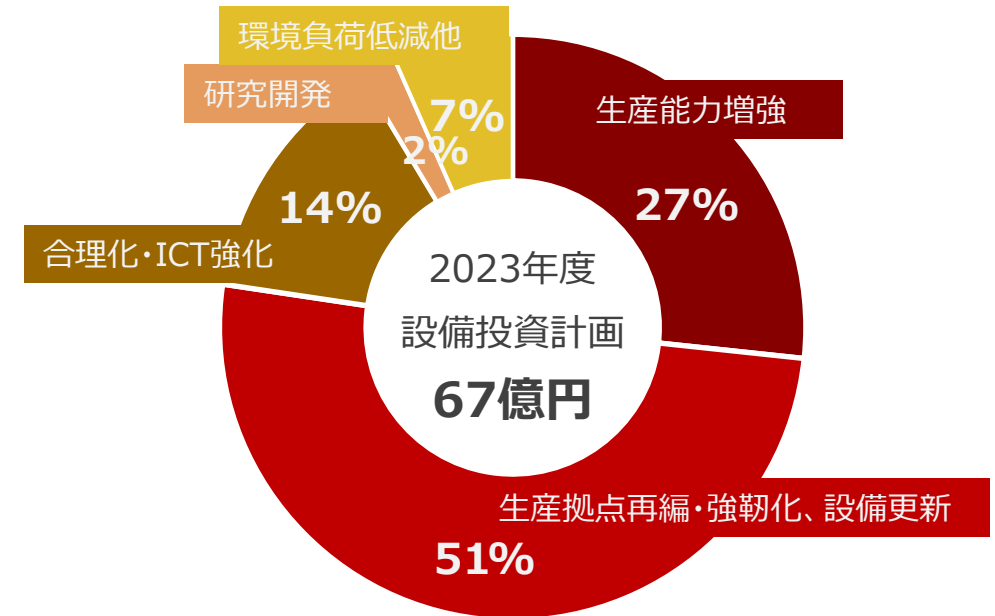
2023年度連結業績CF予想と設備投資計画

< 連結キャッシュフロー >



2023年度の営業CFは運転資金の圧縮により増大
投資CFは、設備投資の増加により支出増加

< 設備投資計画 >



セグメント別内訳

エネルギー・インフラ事業	25億円
電装・コンポーネンツ事業	18億円
通信・産業用デバイス事業	10億円
その他	14億円



SWCC株式会社

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。